

- 【2】 2025年7月30日午前8時25分ごろに、ロシアのカムチャツカ半島で地震が発生し、日本列島の各地に津波が到達しました。図1は、津波の到達時刻とその高さについてまとめたものになっています。
- ただし、図1にある「震源（バツ印）」とは、地震のゆれが起きた場所のことをさします。

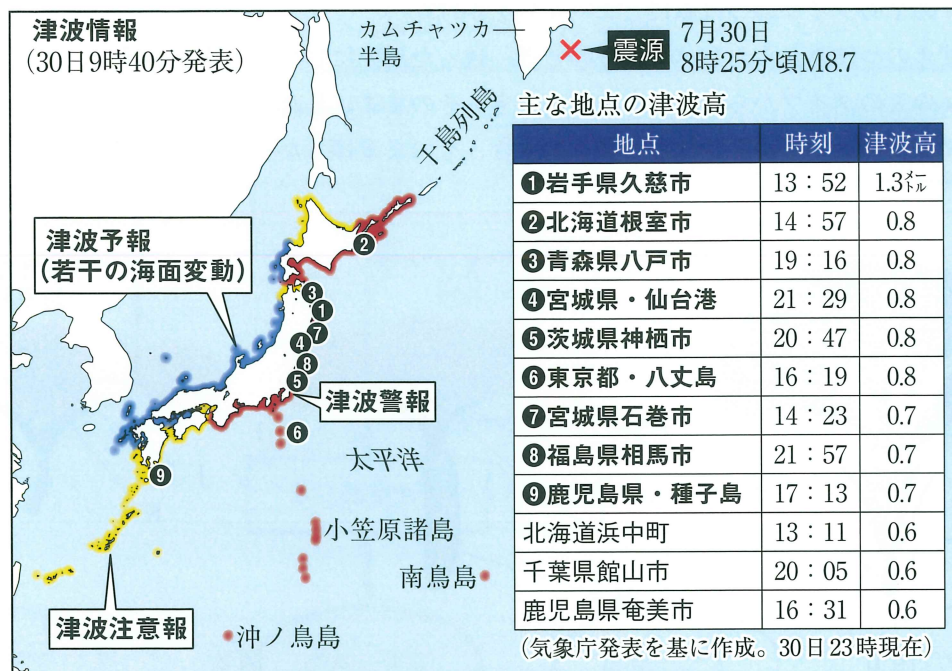


図1 2025年7月30日の地震による津波のデータ

- (1) 地震が発生しやすい場所として、プレートと呼ばれる地球の表面をおおっている岩石の層の境界と、地表または地下に存在している食いちがいの2つが挙げられます(図2)。地表または地下に存在している食いちがいのことを何というか、漢字2字で答えなさい。

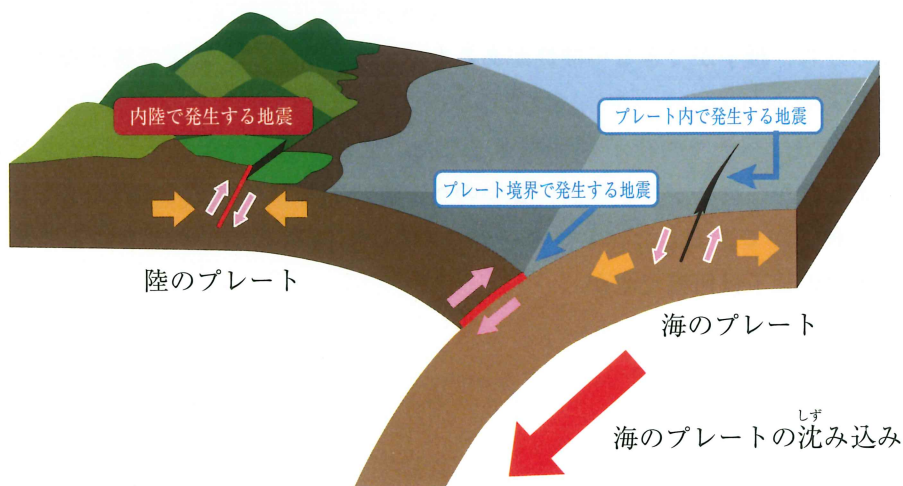


図2 プレートの様子

- (2) 図1の表を見ると、カムチャツカ半島に近い北海道根室市よりも、岩手県久慈市の方がより高い波が到達しています。これは久慈市周辺の海岸の地形的な特徴が影響しています。のこぎりの歯のようにギザギザとした海岸線のことを、何というか答えなさい。

(3) 図1を見ると、近い地域にあるにもかかわらず、岩手県久慈市や宮城県石巻市よりも宮城県仙台港や福島県相馬市の方が、津波の到達時刻が遅くなっています。右の図3を参考にして、津波が速く到達した地点と、遅く到達した地点の理由をそれぞれ説明しつつ、到達時刻に差が出た理由を答えなさい。ただし、図の中にある「天皇海山列」とは海底にある火山の並びであり、「ソロモン諸島」とは太平洋にある島国です。

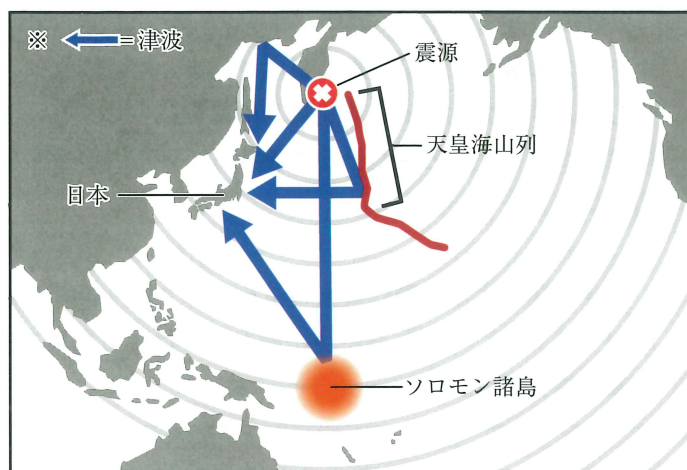


図3 2025年7月30日の地震による津波の伝わり方のイメージ

(4) 図1の鹿児島県種子島の近くには、トカラ列島という島々があります(図4)。この地域では2025年6月21日から地震活動が活発化しており、体で感じることのできる地震の回数が急激に増えました。図5は6月21日から8月15日までの1日あたりの地震の回数を縦に積み上げたグラフです。グラフの右にある色付きの□は地震のゆれの強さ(震度)を表しており、下にいくほど強いゆれを表しています。下の(ア)～(エ)のうち、図5から読み取れることとしてふさわしくないものを一つ選び、記号で答えなさい。

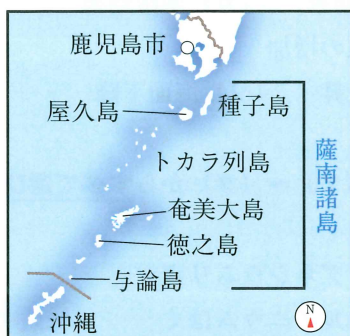


図4 トカラ列島の周辺地図

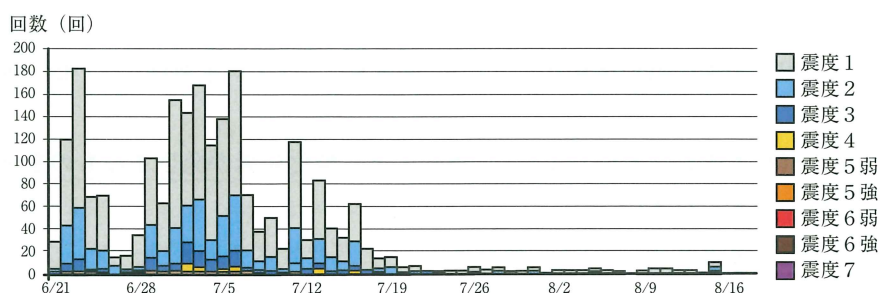


図5 トカラ列島での地震回数(気象庁より引用、一部改変)

- (ア) 地震のゆれの強さをみると、強いゆれをとまなう地震は多くはない。  
 (イ) 図5に表された期間中で、1日あたりの地震の回数は増えたり減ったりしている。  
 (ウ) 7月後半から1日当たりの地震の回数が急激に減ったので、活発な地震活動は完全に終わった。  
 (エ) 1日あたりの地震の回数が多い6月23日や7月6日は、計算上8分に1回くらいのペースで地震が起きていた。

(5) 地震や津波について書かれた次の(ア)～(エ)のうち、最も適当なものを一つ選び、記号で答えなさい。

- (ア) 大きなゆれを引き起こす地震のときだけ、津波が発生する。  
 (イ) 海外で発生した地震では、日本に津波が到達することはない。  
 (ウ) 海に近い場所で発生した地震では、必ず津波が発生する。  
 (エ) 地震が発生してから、すぐに津波が到達するとは限らない。